



さい帯血バンク NOW

第54号

2010年7月15日発行
日本さい帯血バンクネットワーク
発行者：中林正雄（会長）
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社東館6階
TEL 03-5777-2429 FAX 03-5777-2417 <http://www.j-cord.gr.jp/>

登録移植病院はIDとPW更新を忘れずに 緊急出庫における最近の事例

今年5月末、ある移植病院からさい帯血バンクネットワーク事務局に、骨髄提供ドナーから骨髄採取を予定していたが、採取不可となり、公開検索システムで検索したところ、適しているさい帯血があることがわかったと連絡がありました。骨髄バンクドナーの採取直前中止の場合には、さい帯血の緊急出庫を行って来ました。特に昨年は新型インフルエンザの影響で2例の緊急出庫を行ったことは本誌52号でお伝えした通りです。通常は申し込みの後、適応判定に数日間、患者検体の送付に数日間、解凍試験に約2週間、提供に関する事務手続きに約1週間と、提供

までに約1カ月ほどかかりますが、緊急事態の場合には患者救命のため最優先して出庫することになります。

事務局では、第2次検索に入り適合するさい帯血の確保を行うように連絡しましたが、その後その病院から、IDとパスワードの登録更新を行っていませんだったために第2次検索にログインできないと連絡が入りました。この時は特別に病院診療科情報と照合の上、緊急的に再登録を行い当該さい帯血を緊急出庫することができました。

ネットワークではIDとパスワードの登録更新のお願いをして参りましたが、このようなことが起こらないよう

に速やかに登録更新をお済しいただくよう改めてお願いします。更新期限の3カ月前には連絡責任者にメールで案内をしています。期間内であればホームページ上で更新ができます。連絡責任者が変更になった場合は速やかに事務局にお知らせください。

【IDとPWを失効した場合】

有効期限内に更新手続きが行われない場合は、すでに発行されている利用者IDとパスワードは無効となってしまいます。このため、詳細検索にログインできない場合は、新たなIDとパスワードを取得する必要があります。登録時にお知らせしました「利用者登録内容」をご確認の上、すでに有効期限が切れている場合は、Eメールにて以下アドレスまで再申請をお願いいたします。折り返し、事務局からメールで登録内容の確認を行ったのち、新しい利用者ID及びパスワードを発行いたします。

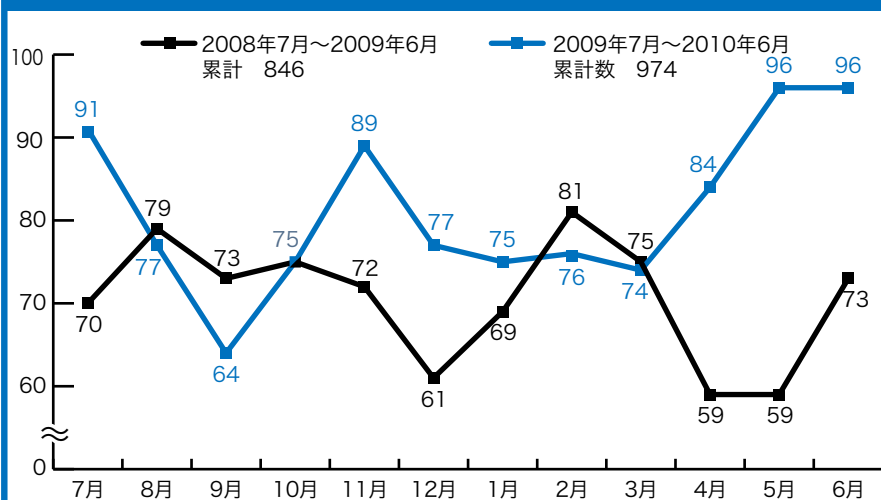
メールアドレス：

network-jimukyoku@j-cord.gr.jp

また、骨髄のドナーのコーディネイト中でも、90日間はさい帯血を確保しておくことも可能です。この制度を活用し、移植に備えていただきたいと思います。

非血縁間さい帯血移植状況(2010年7月1日現在の速報値)

移植数(累計) **6440** 公開数 **33279**





全国大会、テーマは「経営危機」

9月18日は神戸へ

昨年、日本さい帯血バンクネットワークは設立10周年を迎えました。11年目に入り、今年は9月18日（土）午後に神戸で、「2010年神戸発、さい帯血バンク推進全国大会」を開催することになりました。

わが国のさい帯血移植はこの間に、6000例を大きく超え、世界でも例のないほど大きく移植実績を伸ばしています。この全国大会は、さい帯血移植の実績・治療成績などの年次報告を行うとともに、わが国のさい帯血バンク関係者が一堂に会して、さらなる躍進を誓いあう機会です。

また、今春、経営危機が報道された宮城さい帯血バンクの事例などをきっかけに社会的な反響を考えて、シンポジウムでは「さい帯血バンクの経営危機をのりこえよう」をテーマにして、参加者全員でさい帯血バンクの経営的な状況を改善するために考えることにしました。

ぜひとも、多くの皆さんにお集まりいただき、実りある全国大会にしたいと思います。

日時：平成22年9月18日（土）

開場：午後1時30分

開始：午後2時

会場：神戸ポートピアホテル本館地下1階「偕楽の間」

（神戸市中央区港島中町6丁目10-1）

電話078-302-1111

※ポートライナー市民広場駅前

※新神戸駅、三宮駅よりホテルシャトルバスあり

主催：日本さい帯血バンクネットワーク

協力：兵庫さい帯血バンク

後援：（予定）厚生労働省、日本赤十字社、兵庫県、日本さい帯血バンク支援ボランティアの会、骨髄移植推進財団、全国骨髄バンク推進連絡協議会

【プログラム】

第1部 14:00～

- ・主催者挨拶
- ・来賓ご挨拶
- ・感謝状贈呈
- ・事業年次報告

第2部 15:30～

- ・シンポジウム「さい帯血バンクの経営危機をのりこえよう」
宮城さい帯血バンクからの報告
将来構想検討会から
パネルディスカッション
- ・閉会挨拶（兵庫さい帯血バンク代表）

第3部 18:00～

- ・懇親会（会費制）

シンポジウム・さい帯血バンクの経営危機をのりこえよう

旧厚生省の臍帯血移植検討会の「中間まとめ」をうけ、11年前に発足したわが国の公的さい帯血バンク事業は、民間の行う事業を国が財政支援するというかたちでスタートしました。現在、全国で11のさい帯血バンクがさい帯血移植を必要とする患者さんのために、さい帯血を採取し、調製保存を行い、いつでも移植が必要な患者さんのために提供する体制が備えられています。とはいえ、11のさい帯血バンクはすべてが経営的に赤字の状況です。赤字の補填はそれぞれのバンクの経営母体（血液センターや大学病院など）の支援で行い、何とか存続しているのが実態です。これらの問題は、発足当初から指摘され、これまでも多くの調査事例も報告されてきました。しかしながら、国からの補助金などは、いずれも円滑な運営のためには少額に過ぎ、国の財政状況によって不安定なもので、いつでも経営が破綻してもおかしくない状況がずっと続いてきたわけです。

では、どのようにしてこの経営危機を乗り越えていったらいいのでしょうか。海外のさい帯血バンクの経営はどうなっているのでしょうか。これからあるべきさい帯血バンクの姿を考えていきたいと思っています。



すこやかに、幸せに。

明日への夢、描きたい。

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療器具を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。



ニプロ株式会社
大阪府北区本庄西3丁目9番3号



ドラマ

「いぬのおまわりさん」の主治医として

北九州市立医療センター内科 大野 裕樹

「いぬのおまわりさん」という本（不知火書房刊）が2010年7月4日夜、2時間ドラマとなりTBS系列で放送されました。妊娠中に発症した悪性リンパ腫と、おなかの中の赤ちゃんやご家族とともに命を懸けて闘った若い女性・大石真由美さんの闘病中のブログを、亡くなられた後にご家族がまとめられたものです。ドラマはフィクションなので現実とはかなり違うところもありましたが、闘病で最も大切な病気と闘う気持ち、一緒に抗がん剤を浴びたおなかの中の赤ちゃんを思いやる気持ち、支え合う家族の絆は実際と変わりなく存分に表現されていました。

今年3月、ドラマのスタッフから突然のお電話をいただきました。「いぬのおまわりさんがドラマ化されることが決まりました、実際の主治医であった大野先生に医療監修をお願いしたい」テレビドラマの制作など当然未知の世界でしたが、上手くできるかという不安感より興味の方が自分の中で遙かに大きく膨らみ、二つ返事で快諾しました。しばらくして台本が送られてきました。目を通すと、脚本家の方の想像力の逞しさに驚かされました。人として至福の時と突然に訪れてくる人生のどん底をそれぞれに強調し、見事なまでにそれらの落差が際立たせてい

ました。そんな中で私は医療現場のシーンはなるべく実際に近づけて表現していただくよう主張しました。これまでの自身の経験から、医療関係者がドラマを視聴した際に「いくらなんでもこれは有り得ないだろう。」という感想だけは避けたいという思いがありました。6月9日に北九州で撮影があり参加させていただきました。患者さん役の水川あさみさんとご主人役の永井大さんと少しお話ができましたが、お2人とも非常に気さくな方でサインをいただけましたので、患者さんたちの励みとなるようその色紙を、撮影時の写真とともに無菌室前の廊下に飾っています。

撮影現場で思いがけず、お母さんのおなかの中で抗がん剤と向き合った、元気に走り回る結南（ゆうな）ちゃんに会うことができました。成長した姿に感動しながらも、約1年半前の出棺の時を思い出しました。私は見送りながら「この子はもう実の母親に抱いてもらえない……」と、明らかに医師としてではない感情を抱いていました。走り回る結南ちゃんを見ながらお母様に「結果論ですが私ではなく真由美さんが正しかった、私の言うとおりに赤ちゃんを諦めて治療に臨んでいたら、今は2人ともいなかった、でも今日

しく育ってほしいと切に望みます。また、真由美さんは病気がわかったとき強く出産を希望されました。「どんなに障害を持って生まれてきたとしても主人と2人で絶対に育てます」我々の説得は無駄でした、でも、私もその気持ちを理解し、そこまでの覚悟ならと、病気を治すべく抗癌剤を全く減量することなく投与しました。真由美さんは実につらそうでしたがおなかの赤ちゃんのことを想い、懸命に頑張りました。それでも最初は抑え込めていたリンパ腫が3カ月後に急速に悪化しました。まさに運命の酷さです。病気の悪化がわかって4日後に帝王切開、その9日後にはより強力な抗癌剤が投与されました。しかし腫瘍は抵抗しました。この命を救うには緊急のさい帯血移植しか選択肢がありませんでした。抗癌剤投与→帝王切開→抗癌剤投与と目まぐるしく処置が進んでいったため真由美さんの体力は著しく消耗していました。それでも最もきつい大量の抗癌剤、放射線治療とさい帯血移植を受けていただかなければなりません。結果は残念でしたが、移植医としてのありったけの知恵をしばり、今振り返ってもこれ以上の医療はできなかつたと確信しています。

思うに我々移植医は患者さんに常に肉体的にも精神的にとつらい治療を強めます。その過程で疾患を治癒に導くために全力を尽くしながら、なおかつ患者さんのお気持ちを察しご希望にどこまで応えられるか、が最も重要だと考えます。医師としてどこまでリスクを取りながら病気を治せるか、それが我々移植医の度量に他なりません。それを再認識させられました。真由美さんのご冥福と結南ちゃんの健やかなご成長を切にお祈り申し上げながら、移植医として精進の日々です。



主演の水川あさみさんと永井大さんを囲んで、著者は右から3人目

の前に元気な結南ちゃんがいる」結南ちゃんは他の誰もが経験したことのない、胎児期に少なからず抗癌剤を浴びたお子さんなのです。現在（2歳）まで当院の小児科での検診で異常は見つかっていませんが、今後も病気をせず



移植病院 訪問

⑧北九州市立医療センター

非血縁ならさい帯血移植専門病院？

わが国で同種造血細胞移植を行っている病院の多くは年間で数例というところがほとんどで、20例以上の病院は、骨髄移植を中心に末梢血幹細胞移植やさい帯血移植と様々な細胞移植をいろいろと手がけているのが一般的です。しかし、今回ご紹介する北九州市立医療センターのように2004年から始めてさい帯血移植を昨年末までで106例という実績のある病院でも、特徴のある個性的な病院も例外的にあります。

さい帯血26、末梢血32、骨髄0

この数字は2009年に北九州市立医療センターで行った移植細胞源ごとの年間症例数です。まず、骨髄移植がゼロという数字に驚かされます。もちろん、骨髄バンクの認定病院でもありません。本誌第3面の「いぬのおまわりさん」を書いてくれた移植チームリーダーの大野裕樹主任部長は「別に骨髄移植を拒否しているわけではありません。医師が3名（時々2名になることも）という体制では、骨髄採取を行うのは難しいという状況にあります」という。このため、血縁者間の骨髄移植もこれまでにほとんど行っていません。

毎週平均で1例の移植

血液疾患の病棟は別館3階と4階ですが、どちらも他の診療科と共同の病棟です。3階には無菌室7床があって、常時35～50名の患者さんが入院していますが、そのうち10～12名が移植前後



の患者さんです。こうした環境の中で、年間で50例以上の移植を実施しているということは、平均して毎週1例以上をこなしていることとなります。医師が3名でこれだけの移植を行っていることにびっくりしますが、大野部長は「そんなに頑張っているわけではありませんが、移植しなければ救命できない患者さんであれば、同意のもと、ハイリスクでも移植しています」と平然としています。

熟練スタッフ看護体制

では、なぜここまで効率よく移植ができていのでしょうか。井手郁子看護師長は「医師の指示が早いし、すぐに対応してくれてフットワークがいいですから」といいますが「確かに現在の看護師23人のうち5人は9年前に開設した時からのメンバーですから、仕事に慣れているのかもしれませんが」といいます。また、重症化した場合には患者さんは集中治療室（ICU）へ移

りますが、ICUをはじめとする他のセクションも非常に協力的だそうです。

なぜか悪性リンパ腫が

「この病院の患者さんで何か特徴的なことは？」と聞くと、大野部長によると「原因はわかりませんが、なぜか白血病より悪性リンパ腫の患者さんが圧倒的に多い」のだそうです。それも、北九州地区だけに限られ、福岡県全体ではそのような傾向は見られないといえます。また、この病院のさい帯血移植患者に限って言えば、スタンダードリスクはわずかでハイリスクの患者さんが圧倒的に多く、北九州市立医療センターは難しい症例に果敢にアタックしている移植病院といえそうです。

■善意のお気持ちに感謝します■

兵庫県	株式会社フェリシモ	
	木下 八重様	300,000円
大阪府	大和ハウス工業株式会社	
	有志社員一同様	200,000円
京都府	NPO法人ドリーム・トイ様	50,000円
東京都	匿名希望様	30,000円
三重県	安倍 徹様	10,000円
東京都	中田 純一様	10,000円
神奈川県	鬼塚 啓子様	10,000円
埼玉県	大寺 信行様	6,000円
東京都	松本 翔次郎様	3,000円
岩手県	遠藤 律枝様	3,000円
群馬県	中林 秀子様	2,000円

〈寄付受け付け専用口座〉

- 郵便局からの振り込み
00180-9-57390
- 他の金融機関からの振り込み
金融機関名：ゆうちょ銀行
金融機関コード：9900
支店番号：019
預金種目：当座
口座番号：0057390
口座名義：日本さい帯血バンクネットワーク